

令和元年六月一日発行（毎月一回一日）
書象 第六十七卷 第六号 通巻七六二号

書 系



私たちが「日本の書道文化の
ゴネス「書形文化遺産登録」を
応援しています。」

日本書道芸術協会

2019- 6

卷頭言

熱氣溢れる合宿鍊成会

副理事長 中村巍山

米国大リーグのイチロー選手が三月の日本での開幕戦に出場して、引退を表明されました。安打製造機、野球界の魔術師等と例えられ誰もが天才打者と称えています。彼は試合開始二時間前には準備万端で待機、試合後は道具を磨く努力の人です。

この姿から上條先生が生前にお話をされたことが、走馬燈のように浮かび背中を押されるような気がします。揮毫される姿は、いとも簡単でサラサラと神の手かと思われるほど一瞬に作品ができるのです。我々凡人は、その手をお借りできないものかと心底思ったものです。

常々先生は「良いお手本をじっくり汲みとり、時間を見つけて古典を一枚でも多く練習することが上達の道だよ。とにかく書かなきゃ駄目、その繰り返しがあって初めて作品らしきものが出来る。」寸暇を利用して書く努力の大切さ、必要性を示されていました。

書道学習の方法の一つとして、鍊成会があります。書象会では、年間計画に合宿が組み込まれています。今年は久しぶりに福島の磐梯熱海温泉の広い会場を用意して、会員の皆様の参加を募っています。この機会に全国各地から参加されて、目標を同じくする仲間として、環境を変えて学ぶことは書を志す上でとても有意義なものです。

合宿では、各部門に分かれて練習します。各々の目的に沿った部門で専任の指導者により懇切丁寧な指導、アドバイスが受けられ、日頃の疑問点や困った事などの相談にも一緒に考えて、より良い方向性を示してくれます。初心者の方も安心して参加できます。

教わり教えあいながら刺激を受け、書き疲れた時は豊かな湯量の温泉に浸かって銳気を養い、書道三昧を楽しめます。二泊三日の合宿で、会員の皆様と懇親を深め、より良い学習、作品作りに精を出しましょう。早めに友人知人を誘いあって計画を進めて欲しいものです。

虎井暁鐘先生のご逝去を悼む

虎井暁鐘先生は四月十五日肺炎によりご逝去されました。三月末には書象展作品を立派に仕上げられて、実によい笑顔でした。それが半月後には、突然のお別れとなりました。残念です。悲しいことです。虎井先生は書道界で広く活躍され、わが書象会でも副理事長、信州書象会理事長、若竹会主宰として、多くの会員をご指導下さいました。信山書法の探求に専心され、良き範を示して下さいました。ありがとうございました。深く感謝申し上げ、ご冥福を祈ります。合掌

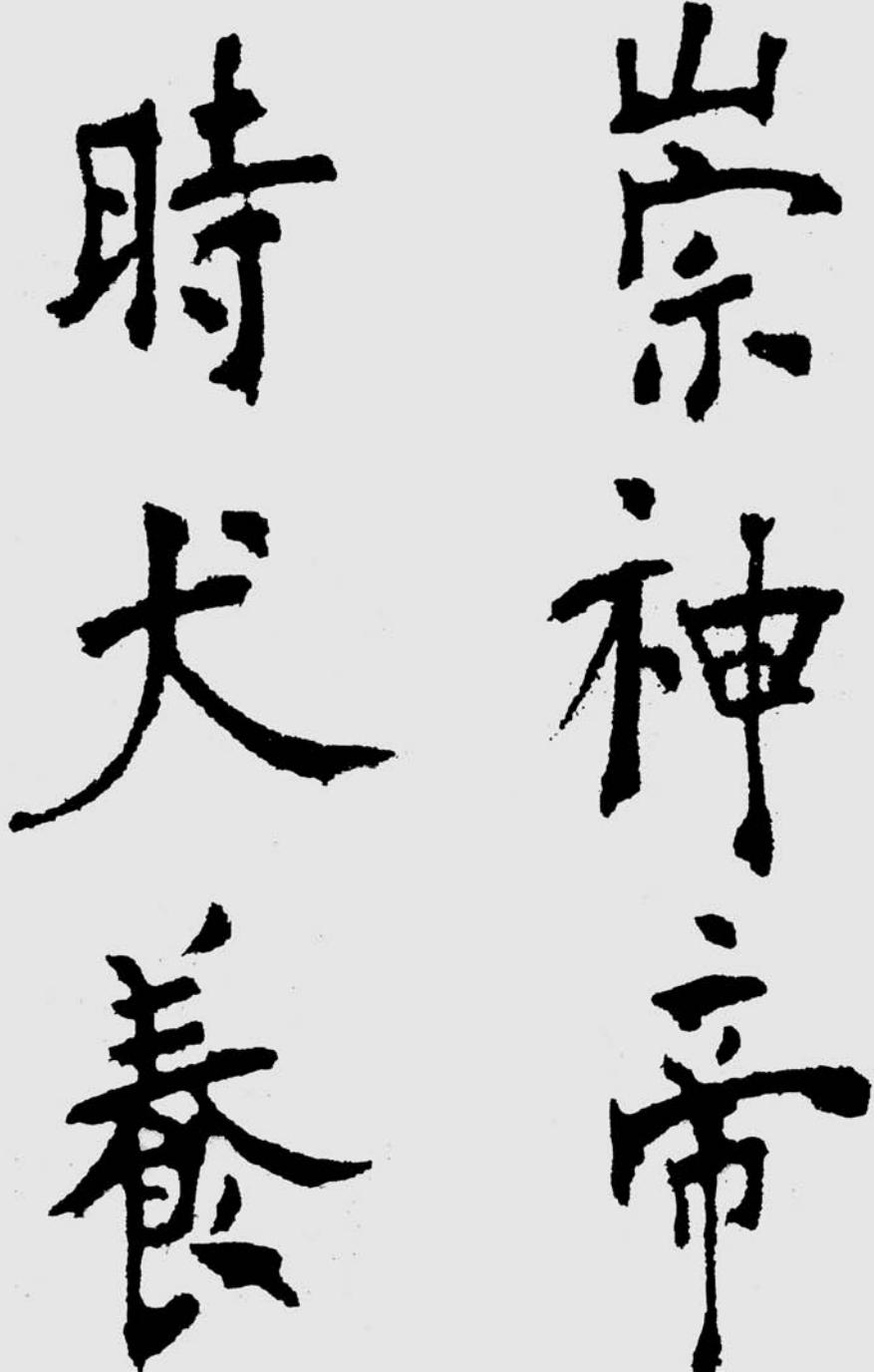
書象会理事長 市澤静山



1968年 上條信山先生書 戴叔倫「三閭廟」詩

基
本【基本】

宮島詠士先生書



崇神帝時犬養

6月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

眼界なく、乃至（意識界）なく



6月20日必着
出品券を貼付

12月24日

界：「界」の下部の空
間も大切に。

① 無 ← ニ
② 無 ← ニ

六字目

① 無 ← ニ
② 無 ← ニ

二字目

• 左右に動きのある字
が多いで、筆を立
て腕を大きく動か
すつもりでゆったり
と運筆したい。
無：一字目と最後の
「無」では筆順が
異なります。

・筆脈を意識して、大きく運筆することを中心とする。

不：最終画の位置を下げてバランスをとる。



淨：縦長を意識し、中央の空間を広くする。



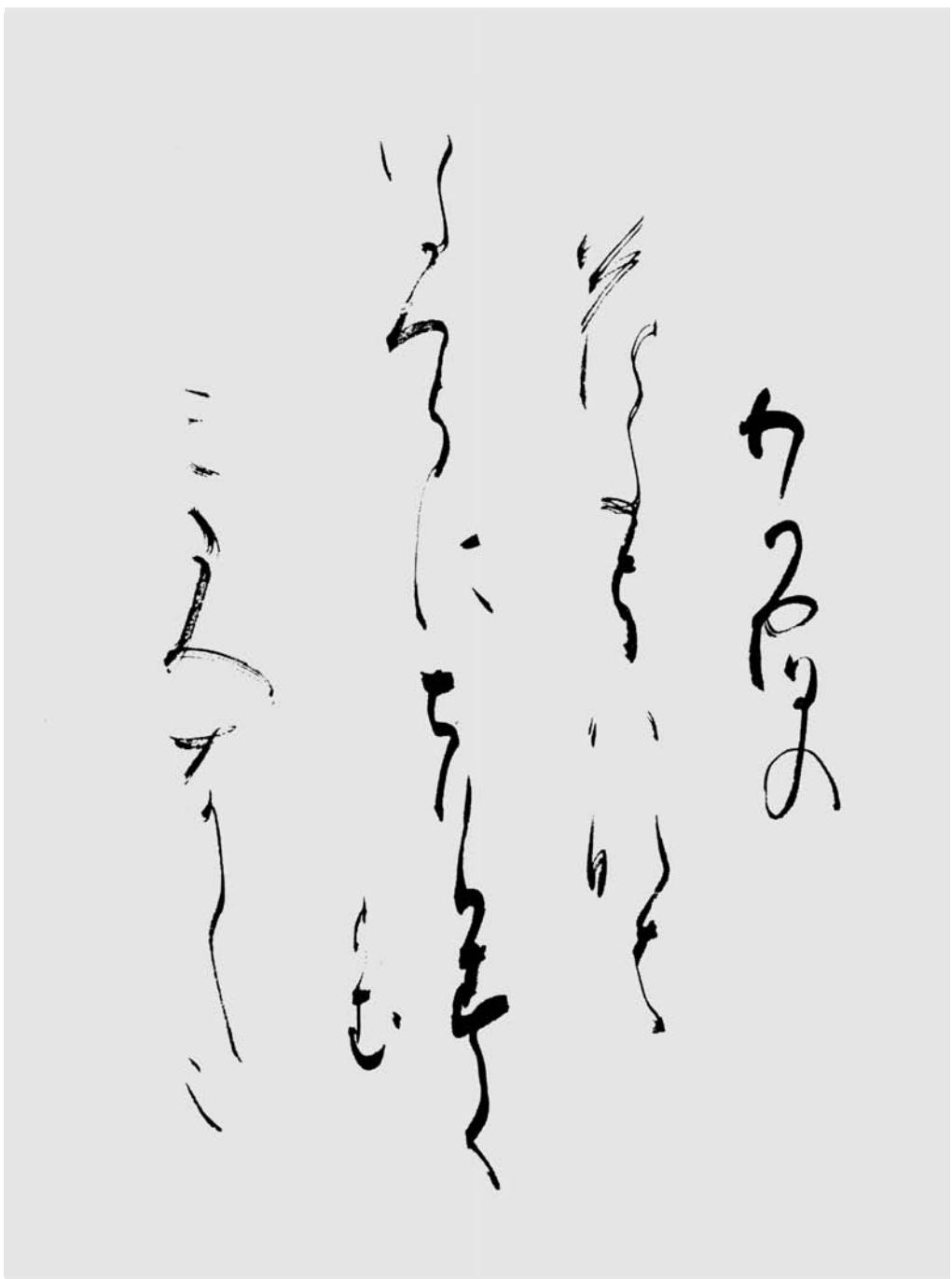
不
淨

不

淨

仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書



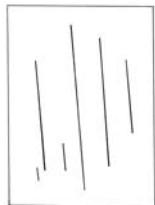
わが(可)宿の花た(多)ちば(八)な(那)は(者)いた(多)づらに
ちりか(可)す(春)ぐらむみ(三)る人なしに(二)(万葉集)

6月20日必着
出品券を貼付

「ちりか(可)す(春)」

「花た(多)ち」

「わが(可)宿の」



・全体構成
各行右下へ流れる。
墨色の変化や行頭、
行末の位置に気を配
り、力むことのない
爽やかな連綿を心が
ける。
・最終行は軽快に。

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書

・四字の連綿ですが、
単体での文字の形を
しっかりと意識する。

ゆたけ

なき

「ゆた(多)け(介)
き(支)」

「な(那)る」

かざしつ

はるけ

「か(可)ざしつ」

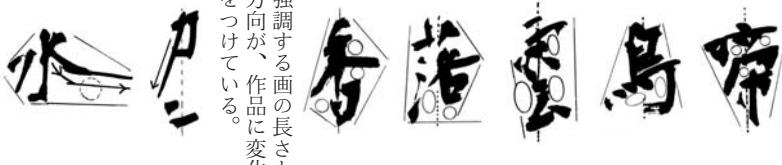
ゆた(多)け(介)き(支) なくな(那)
か(可)ざしつ はるけ(介) き(支) る



6月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します



強調する画の長さと
方向が、作品に変化
をつけている。

筆をしっかりと立てて
伸びやかに運筆した
い。文字数の少ない行は、
字間を十分とする。
中心を貫通させる。
空間を意識して文字
構造にゆとりをつく
る。

沙白鳥飛廻

節山

印

沙白くして鳥飛び廻る

- ・沙…さんざいをどっしりと
- ・白…小さめに
- ・鳥…四つの点をしっかりと打つ
- ・飛…左払いと右払いを対称的に太く引く
- ・廻…回の中の余白を明るく

条幅隨意【条隨】

内藤望山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付

源遐緬叡鄴崇深識照天璣沖光永清玉
生山

源遐緬叡鄴崇深識照天璣沖光永清玉
生山

源遐緬叡鄴崇深。識照天璣。沖光（□□）。永清玉（賈思伯碑）

・張猛龍碑と同一筆者とも言われており、損傷が多いものの、北魏書法の典型を示す。

・「璣」「叡」はP.14参照。

事公業共

中学一年規定【学毛】

柳澤玄嶽先生書

器用先

中学二・三年規定【学毛】

市澤靜山先生書

水雨土火

小学五年规定【学毛】

石丸曉風先生書

通電單行

小学六年规定【学毛】

高瀬霞山先生書

かくそ

小学三年規定【学毛】

寺尾碩雲先生書

合理化

小学四年規定【学毛】

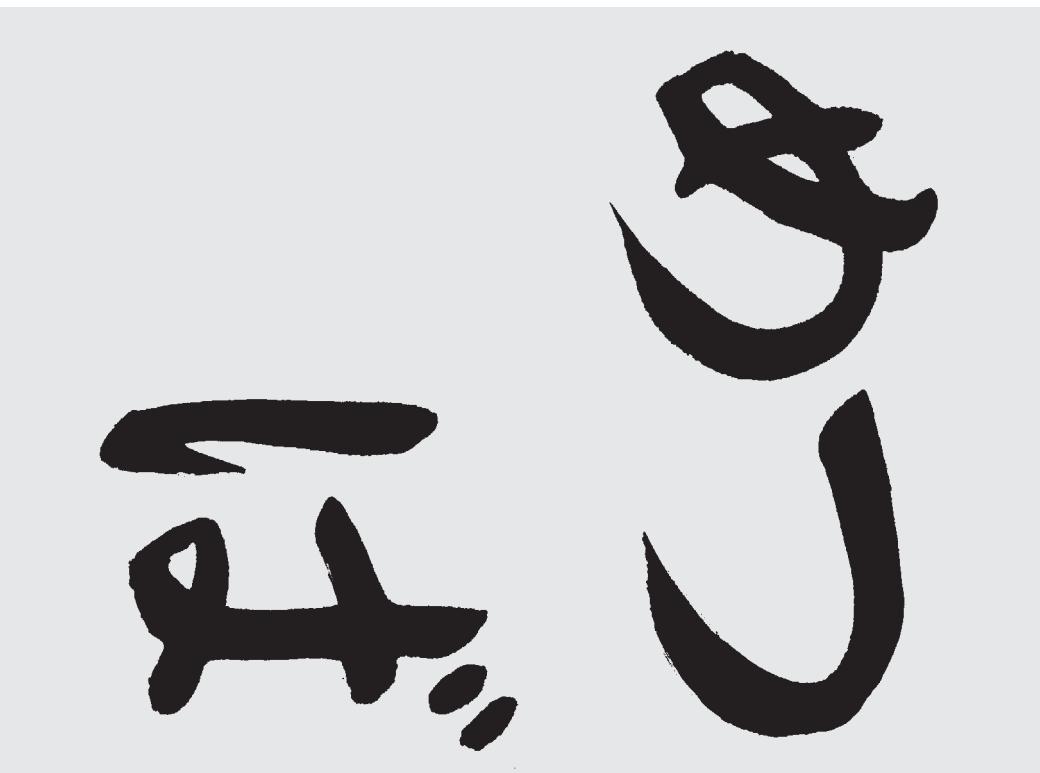
久保妍山先生書

小学一年規定
【学毛】

大島岐山先生書

小学二年規定
【学毛】

小淵石峯先生書



硬筆規定

書の構造に於ける（介）る点や線や面の（能）あり方は（八）書として重大な決め手となるものである。（那）るるものである。

一般規定【二硬】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書

書の構造に於ける（介）る点や線や面の（能）あり方は（八）

面をより一層、書くことで重大な決

め手となりるのである。

一般規定【二硬】（級位）

二瓶嶽風先生書

毎年六月、三鷹の禪林寺で太寧

治を偲んで、多くのファンが訪れ、桜

桃源が催される。

中学規定【学硬】

樋口玄山先生書

夏の訪れを告げるホトトギス。

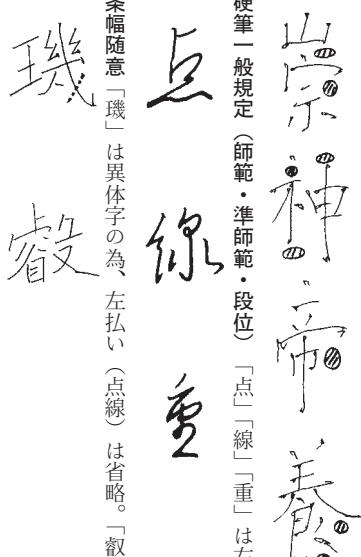
漢字では、時鳥、不如帰、子規

などが当てられる。



中学二・三年

学生部規定



・基本 「崇」「神」「帝」「養」は左図参照。

・硬筆一般規定（師範・準師範・段位）「点」「線」「重」は左図参照。

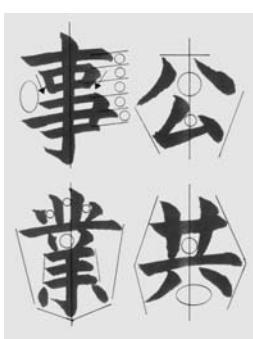
。

小 一・ 二年 学	元
中 学	安 定
小 三・ 四年 学	決 意
中 学	号

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。
出品券を貼付してください。

小・中学生随意課題【学隨】



中学一年

行書では筆脈を意識し、運筆に緩急をつけてリズムよく書くことを意掛ける。墨継ぎも一文字につき一回を目安にする。始筆は楷書よりも軽く入り、終筆は押しつけすぎないようにする。

「公」の二画目の止めは許容。「共」の横画は等間隔につくり、六画目を最大幅に。『業』は横画の方向と長さを意識する。「業」は横画の書き方は許容。

形の整った美しい文字を書くためには、反復練習を続けることです。

名前
支部 年 級段

小学三・四年規定【学硬】

畠中高山先生書

波の力を利用して、電気を起こす研究が、進められています。

名前
支部 年 級段

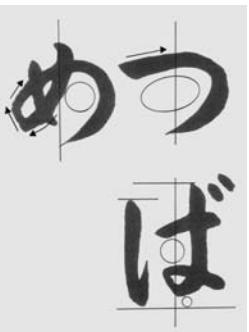
小学一・二年規定【学硬】

藤森大節先生書

き	の	こ
ま	花	と
し	が	し
た	き	も
.	れ	ア
なまえ	い	ジ
支部	に	サ
年	さ	イ
きゅう		

*出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生は鉛筆使用のこと（中学生は鉛筆使用のこと）。小学生は鉛筆使用のこと。作品の大ささ→たて18cmよこ7cm小一・二課題→2.1cm中のマス目紙を使用する。小三・四・五・六課題→2.1cm中の罫線を引く。



小学二年



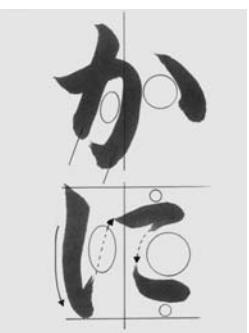
小学四年



小学六年

「め」は右上に払い終筆を出す。「つ」は右上に払い終筆を出す。「ば」は左の払いを均等に書き、バランスを保つ。「う」は点の位置に注意し、縦長にする。

「電」の横画は全て右上がりにし最後の曲がりで支える。「車」の左右の縦画は内側に向ける。「通」の角部分は中心より右側に。 「り」は左右にふくらみを持たせ、縦長につくる。



小学一年



小学三年

「か」は一画目の曲がりが中心に来るよう意する。「に」は一・二画目の筆脈を下部を揃える。「わ」は二画目を書く位置に注意し、空間を広くとる。



小学五年

「糸」の斜めの画は平行に書く。「で」は折れから終筆までの筆運びをスムーズに。「ん」の書き出しは角度に注意し、下部を揃える。「わ」は二画目を書く位置に注意し、空間を広くとる。

若 ヲ 答。

嘆 ロ + 半 番。

虛 一二ノハ 帝 霊。

誕 旁は らら + 人。

齊 ヲヤガガ 言 震 震 + 一 F F。

彭 丕 + 𠂔。

殤 偏は ヲリ。

蘭 うん
亭 てい
叙 じよ
晋 (三五三年)

王羲之 (三〇七～三六五年)

今月のテーマ

写実的臨書

細字 (十五字以上)

①文字数を間違えないで出品して下さい。

②続き文字でなくとも構いません。

③落款を入れて下さい。

④作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。

古典研究の出品券を貼付して下さい。

(編集部)



〔艶文〕若レ合二契。未嘗不臨レ文嗟悼。不能レ喻之於懷。固知一死生為虛誕。齊彭殤為妄作。後之視レ今。

松本市美術館便り

上條信山記念展示室 令和元年五月二十八日(火)～九月二十九日(日)

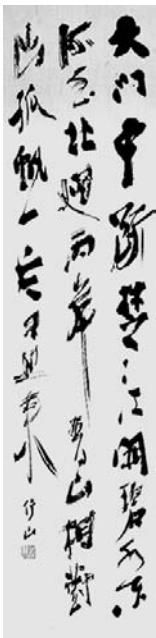
作品たちの晴れ舞台①

松本市美術館は、2002年4月にオープンし、17年が経ちました。その間、記念展示室ではさまざまなテーマで年3回程度の展示替えを行い、その数は約50回を数えます。代表作であればご覧いただく機会も多くなりますが、その陰で展示される回数が少なかつた作品もあります。展覧会出品歴のない作品、若書きの作品、形状により頻繁に展示することが難しい作品など。

今回、これまで日の目を見る機会が限られていた作品にスポットを当て、シリーズでご紹介します。肩肘張らない率意の作であったり、書風を確立する前の過渡期の書きぶりであったりと、時々に生まれた作品たちの晴れ舞台をご覧ください。

上條信山記念展示室

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	主要展覧会
1	心 花		34.5×68.1	
2	剛 穀		34.7×67.7	
3	高 風		34.4×65.4	
4	不 易		34.4×67.5	
5	晚 成		34.4×68.0	
6	壯 心		34.6×68.0	
7	遊		68.8×82.2	
8	守 拙		67.6×69.4	
9	源 泉	昭和59年 (1984)	70.0×141.3	
10	水 滴 穿 石		68.4×68.4	
11	知 命		67.8×69.2	
12	花		67.4×69.8	
13	無 縫		69.5×136.7	
14	不 忘 敬		157.3×71.3	
15	忘 形	平成2年 (1990)	69.0×136.5	第29回書象展
16	清 風		68.3×68.3	
17	南洲翁七律詩	昭和14年 (1939)	各133.0×33.8	
18	天 下 帰 心	昭和55年 (1980)	246.0×67.5	ヴェニス展
19	良 寛 の う た		136.2×34.2	
20	李白詩「望天門山」		79.5×19.3	



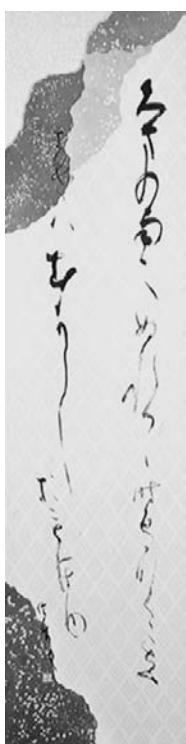
李白詩「望天門山」



遊



無縫



良 寛 の う た

第八十一回 謙慎書道会展（受賞作品）

梅花賞

中内真意

【授賞理由】

北魏の楷書を基盤として自己作風確立のため、練磨を積み重ねてきた。逆筆中鋒用筆で強韌な線の中に深みを加え、筆力のある直線的な表現が生きている。豊かな墨量、鮮やかな墨色は見る者の心に響く。

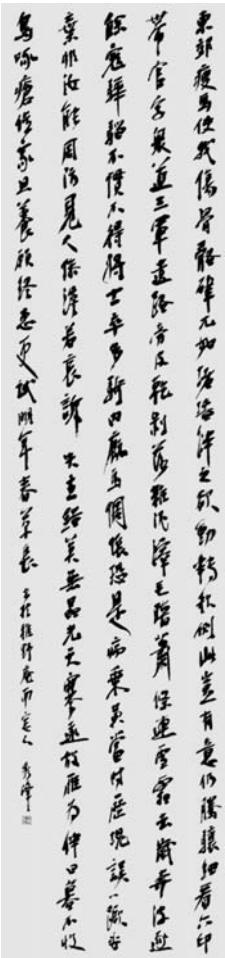


春興賞



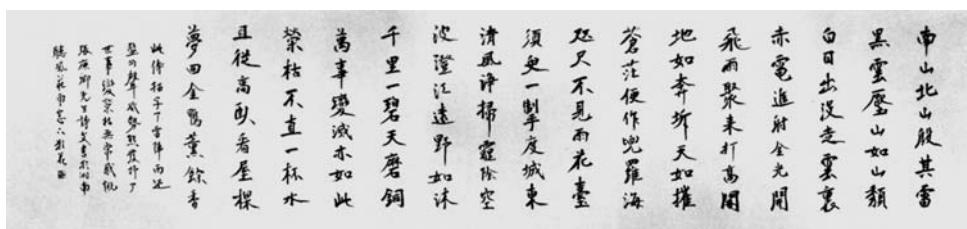
坂牛静心

春興賞



仲島秀峰

東鄰瘦馬使犬傷骨體碑石加筆海碑之缺動轉林側山崖有意彷彿猿狹看六印
茅舍空巢並三軍並路者五瓶影落難流岸毛階剪角促速空雲去箭并注迎
紅塵華船不得不得得得工年多時日麻丘惆悵恐是而乘莫當其座況談一歲安
棄非汝能周防見人係津若哀諱未主歸莫無品名天寒暮並假應方碑口暮少收
鳥呼瘞修家且養耕經忘死試明年春草長多於雅詩唐布宣之秀序一則



都所影花

春興賞

申山北山股其雷
黑雲壓山如山額
白日出沒走雲裏
赤電追射金光間
飛雨聚來打高閣
地如奔折天如摧
蒼茫便作兜羅海
咫尺不見雨花臺
須臾一掣爭度城東
清風許掃虛除空
波瀾江遠野如沫
千里一碧天磨鏡
萬事變滅亦如此
榮枯不直一杯水
且從高臥看星樑
夢回金鶯葉餘香
此律詠于雪津而生
坐的聲威勢烈震汗
世事縱橫空無事可忙
孤獨那先生詩文集於申
勝家藏書志小影

春興賞

蕪木珠紅

白鳥黃金雀
雲砂燒
夢思那堪愁苦節
遙憶邊城鬼

朱紅

特選謙慎賞

新井雄峰

魯郡丞白法相功曹史孔暉祖督魯兵新陽主
薄太元始督汝陽兵二縣令魯縣令杜僧燭汝
陽縣令明景欣鄖韓咸陽平衛安族
雄峰

春興賞

宮寺瑤光

是明池水漢時功武帝旌旗在眼中纖
女機絲虛夜月石鯨鱗甲動秋風設漂
狐裘沈雲黑露冷逼房墻紅周寒
極天唯鳥道江闊滿地一漁翁

瑤光

峴首風湍急に
雲帆鳥の飛ぶが
若一軒に憑りて試し
に一同才張爾未帰
を歎するやと重ね

特選謙慎賞 宇野壺裕

特選謙慎賞

石井薔峰

特選謙慎賞

久保田珠悠

五里聞瀑聲東若車千兩輶迴見飛梁穿若虹百丈衆流會
三峽門扼其吭建瓴沸驚湍排空削層嶂石激水斯怒水橫
石逾壯木石終古爭怪奇紛萬狀日斜金井潭飛沫出橋上日
光散清紅雨絲亂飄颻絕景遇西蘇何人雄高唱蒼峰

特選謙慎賞

伊藤恵佳

特選謙慎賞

徐諭曰興語則可曉目解氣安舒如語子茅然自古大臣
薨于非命者何限未見徒容若公者也公高祖訥齋先生
徒若林強齋受崎門之學五世相傳至公自少尚風節
剛堅不屈事涉大義名分意氣慨然

乙亥之春
惠佳

特選謙慎賞

木内理映

特選謙慎賞

陌上花間蝴蝶飛江山獨是昔人收遺
民參戎塞：名追女長征猿歸

遊九仙山聞空中鬼歌陌上花詩卷三更越王城無聲藝安歸
歌曰陌上花開可謂之歸矣吳人用其聲而歌客起其聲聽之淒然而感詞亦
多悲音

特選謙慎賞

北村暎光

不釋南州射島堂有失親後臺重垂絳色里難給人海
隋王以南花明玉嶺春北鄉多寶玉俱勿厭清貧雖步
趨升陛兮曹恨攀微曉隨天任入善蕙御香歸一夕髮悲
在落青雲裏鳥飛聖朝無嗣至自覺諫吏辭張光

特選謙慎賞

山口芳節

萬山落飛瀑競向清溪會濂洄穿松杉葱蒨紛映帶積
石疎劍鋒百里無靜瀨箏師憤歌喟險絕了不礙攢霄排巖
密幽異此中最轉惜嶮崿中蒼黃出煙靄漁火半明滅海月
上山背家鄉還別人已隔青峯外江洪度倚芳弄

秋風蕭瑟悲天氣涼草
木搖落露沾霜

久世

不知香積寺數里入雲峰古木無人迹
深山何處鐘泉聲咽危石日色淡青松
薄暮空潭曲安禪制毒龍

熊坂吳碩

春江手に人毛と欲し而勢未りて已らず小屋漁舟のいとし濛たり
小雲の裏空危寒菜を煮破壺涅葦を燒く那を知らん是れ
寒食ならず但が見立鳥の紙を衝むと君門深きと九重墳墓万里
に在り世を嘗め窮るに哭せんと擬す死灰吹けとし起たず

鈴木杏静

第58回書象展 会期中行事日程表

6月13日（木）午後2時	開展 ギャラリートーク 樋口玄山先生
6月15日（土）午後2時	ギャラリートーク 杉山暁雲先生
6月16日（日）午前10時40分	第50回全国学生書道展表彰式（三階講堂）
午前11時30分	子供のためのワークショップ（三階研修室）
午後1時30分	支部長講習会（三階講堂）
午後4時30分	五人展インタビュー
6月18日（火）休館日	
6月19日（水）午前11時	ギャラリートーク 山口啓山先生
午後1時～	実技講習会（三階研修室）
6月21日（金）午後2時	ギャラリートーク 中村巍山先生
6月22日（土）午後1時45分	学生展講評会
午後2時30分	子供のためのワークショップ（三階研修室）
6月23日（日）午前10時30分	読売書法展添削会（三階講堂）
午後4時30分	表彰式（第1室）
午後6時	閉展

※六月十六日(日)10時40分より、国立新美術館三階講堂にて表彰式がと り行われます。(P51「書象会便り」を参照ください)受賞の皆さ んのご出席をお待ちしています。	味清栗栗細石村高小吉平田平梅 本田川戸野井上野甲賀松中田澤	廣進阿古西吉金土新角小平 瀬部内川子屋井田山井千	武安原莉夏 藤原結香	記信山念先生賞
	真波陽春夏董望日大天彩早星 佳琉愛香歩花華那睦雅音奈穂乃	美桜香由く璃佳葉綾音 楓優乃里乃蘭ら乃凜美奈音	協日本書道大賞	協日本書道大賞
	菊花寺松齋八江成森鈴小川鈴中瀧西久今荻末 地岡井宮藤代野瀬本木林島木沢谷澤井井原田可	藤滝櫻関南三有濱閑嘉航 木沢田口保石質野笠原	小茂藤山根嘉帆太郎 笠原航嘉帆太郎	藤山澤笠原
	俊駿奈歩由日真結優実理愛愛萌梨日椋子 霞奈愛太英真愛花央衣菜佳奈美遙実夏緒和子	連盟日本書道賞	幹愛う一葵心葵愛菜結衣郎 太未た慧音菜結和奏	和愛り董奏
	平田大西樋内長渡小吉金龜門中高百廣塩片北加大仲染谷 田中久村口谷邊林澤岡間文野村昌瀬川山川市あ	書推奨	三上佐牧野根佐藤野 平ひ季まり理世杏樹彩莉	郡司肥野根佐藤野
	早彩美ら水勇莉二秋美翔未芹女ま俊花深怜愛未や紀 穂奈咲ら香太琳奈葉菜子太桜香香ゆ哉結雪雅奈美玖か織	象賞薦	佐藤理世杏樹彩莉 依凜紀	咲紀
	中鶴飯神西佐大田高黒佐勝小竹高河塚長貞太文岩中浜安曇池宮太成小白長木萩立 山沼田谷澤藤矢中橋澤々間川内瀬橋合田門田田野田島田村間上本田瀬倉石谷川英			
	七莉恰未菜璃優藍佑美友萌冴の友胡野紅佐颯結柚志沙幸春瑞愛眞玲愛美舞千朋茉 星央奈来子乙奈空花月梨絵京か理桃乃愛桜哉斗奈穂弥那撫希莉優紬菜加咲香鶴香弥			
	吉高中白貝池古安山成清刈柏原山瀬菊平豊清高田菅鷗青高高中天三槌中今 村橋山土藤谷澤井口相田込野澤戸地林田水橋口谷原木橋松村利原屋島井ひ和			
	優理め陽由宣梨彩実舞桜仁実雪七七心涼麻寛寧優麻琴朋な心花雄彩水 未彩る崇唯輝音葉心心都子菜花姫海海羽花央太月羽央美花た愛優奈大乃晶			

第50回全国学生書道展上位入賞者速報

第五十八回 書象展受賞者

余山茂 布福富塚宿嶋渋菅 語口木施山田本谷埜谷野 元芳麗 杠京童皎硯壺靜芋 祥節節華江柳沙心玉秀里	<small>《獎勵賞》</small> <small>十一名</small>	山日塚谷閔島小泉 比中野原川澤田林切澤 孔照花汀劍壺貞靜禾 心悅瑤楓山峰月唱苑	<small>《櫻花賞》</small> <small>九名</small>
--	--	--	---

加影加大梅井池荒 藤賀岡山美井原上野木 江天節凜華美愛佳 風性真玉聖子麗扇	<small>《特選》</small> <small>三十三名</small>	山星中長内鈴木川岡大太稻 本野村島藤木内保田村田葉 爽華春天秀杏洞麗映玻荷京 節逕桃意月静舟爽華玉春	<small>《書象賞》</small> <small>十二名</small>
--	--	---	--

渡矢向宮南御丸松牧林野西中遠辻田田田高高高征小小
 辺作井澤野柴山岡司谷本峰村中中幸橋橋橋野森池
 紗麗伶晃晨英美馨惠泰快風裕櫻霽久滿華智麗壺詠碧大峰
 心川那靜窓遠子秀風吟風聲子庭紗美珠慧峰湖登草空工弦

柏鹿角小小大及遠榎内内上今今井池飯安有淺赤 山笠崎島崎田川原高熊石川藤谷村田川野井井澤田島藤賀見井 と天泰毅葦陽夢千慈翠華靜名康優希華梢和莉泰蒼康游 み枝虹帛峰仙麗宵秋苑花雅詠琳芳螢翠紅遙琴子杳松玄絹惠	<small>《秀作》</small> <small>二三〇名</small>
--	--

渋佐佐笛佐坂斎斎安小小古小黒久保北岸川川金金門加加片
 谷野藤森孝井藤藤永林林林賀池崎田保原 本上子山脇藤藤岡
 濤紅梗光美錦菖華泰天真華晨節李麗珠 光葉敦裕葉見里嶺芝珠
 皐流紗蘭子風月駿象苑志蓉雪麗心香遊真水草子月蕉紹緒心華松

中長永虎戸土坪坪續土玉田田田多竹竹高須鈴杉庄周下嵩
 沢江井本田井内井橋屋屋井畑中中中田野内内城田木山司藤平田
 嶺白麗溪旭雲廣名華蓮寶麻映麗穗紗安翠直多優蕙蘭輝朴文成悠
 花羽扇風蓉峯扇穗舟春子芳竹暉虹乃紗美子節影光光山界苑子

宮水神三三丸間真松真前本本藤福廣廣平姫半濱根仁新西西永中
 枝島田神浦山宮殿田島島間間原里本瀬田野田田津平田川 田島
 華溪五李欽花粹司玄梗李双鐘眉祥黎黎千知綠浩賀明涛錦桃萩
 凰彩霞福風造穗心峰穗翠葉葉雪月己華湖節子風美子秀花節林泉

青青木木千響波泉	<small>《褒状》</small> <small>二三九名</small>	魚渡若吉吉横横湯山山山柳森森百百宗務宮 辺井見田山山浅田下口口澤井瀬瀬形台原下 桃伸汀美仙京葉英桂幸紀夢京霽涼壽麗泰紅武 宮幸珠茜山丈節苑葉耀靜光苑琴華香香吟煌玉浩
----------	--	---

尾小荻大大太大大遠遠内氏上上植岩岩今井井市磯石石生井安有荒荒新阿青青
崎口野山橋田川川藤藤田原原原草田井井上原川貝橋田野口藤馬井井部山木
光妙明妍節志惠美李晨溪梅白章光澄保泰葉清壯琴安歌麗碧雅萌遙妹谿剛信由
美仙笛龍舟苑美子雪翠茜惠麗敬苑葉歌桂楓光一三夫節玉瑤楓禾霞光祥節翠光

是小小小小兒小小煙黑倉熊久清木城北北北蒲川川刈上上金金片鹿笠小小落
常山松林林林玉島池山岩谷野田田村戸ノ川川原原上間條條澤澤山島原野沼合
麗勇白訪晴水泰泰高紫李奏珠光晶友渚京名有美壽優靜壽喜節華邀未秦蕉宗江
陽峯帝泉香煌壽泉風瑛香風天瑛子子月秀紗美子石華映星游雨虹月華風苑心水

瀧高高高高染園閔諷須菅白下清清島嶋柴宍塩佐佐佐佐佐佐佐佐佐
口橋橋梨田杉木谷谷山根根訪藤原木村水水田澤田戸谷藤藤藤木川口井藤藤藤
加穗桜弘花景晟桃圭莊祥虔珀理彰智沙麗志夕康春桂翠玲望江梅靜千秀典泰香
代波嵐子庭汀秀雨苑心節山舟花月悠櫻艸織節惠信春桐窓春蕙清章春岳子城琳

久東半針林林早濱花初長橋橋野根西西西中中長鳥鳥豐豊豊筒長田館伊竹武武
末田寿川吉形津川本爪尻津野澤垣山谷田山居田田島井南中野達前田居
大瑞珠簾佳靜感濤壺美紫桃泰益凜映光美友汀壽真大晃月江玉彰鳳知梗節典
地逕水玉怜蓮節心山博靜芳芳淨之心靜風穗節珠敬理慶翠性惠袖玉節節華峰子

山柳柳森森百茂望村宮宮宮三三美峯南三三町牧堀堀古古船藤藤藤深平平平
田澤沼井瀬木月野下崎入村藤部村方浦浦田田米屋河越本本牧川山林野
敦逸秀京游真白篁清啓桜晟杜明久節伊清玄徑輝愛康葵葉松葉典靜隆苑千桂重
子葉光仙真花水心実光蘭光心成子琥子玄記石子鈴峰翠明菜徑楓川雪心繪秋子

宗妹鈴杉篠佐笹佐作後後栗熊木北木甘鎌折荻今石渡和若吉吉吉吉吉橫湯山山山
尾木村田藤生木田田藤原田下澤内中倉笠原井原部田山野田崎岡山坂田田田
玉睦華和秀里藍春名翔さ明谿研日惠師琴白青翠花華穏湖麗靜光沙閑裕玉榮
栄子綾美水美花幸琳珠く麗峰治博子果竹羽華葵幸天葉空葉楓邦搖春雲靜麗紅

渡平野中長土田染住清佐小越清柄金井池安相吉森室三樋林中富寺寺手辻田
邊吹田村戸屋村谷吉水藤林谷兼澤子上田部原田田浦口條沢脇島塚岡中
橙純昌由智さ由教美憧祐礼信実憧友珠青美憧眞由恭明志玲正智浩ゆり美
泉子夫美見り子子泉子佳行紅月里杏泉子光子子花桜豊奈祥恭子子玉芳

久永豊田高上安
井濱田中橋野齋
萌和真彩真沙優
夏歩織奈実月希

《入選》

七名

安平酒北神虻齋
原田井岡林川藤
莉早彩実桃梨美
夏穂帆理子子悠

《褒状》

七名

高校生出品

8 参加申込 7月12日(金)までに同封の「払込取扱票」にて費用をお振込みください。
ホテルは4~6人の部屋です。同室希望者のお名前をお書きください。
会員以外の方は、書象会本部 ☎0422-53-9743 へお問い合わせください。

9 日 程

- 【8月31日(土)】 12:00~13:00 受付、更衣室で着替えをすませ荷物を持参の上、開会式会場へ集合。
13:00~14:00 開会式 2F 華胥
14:00~17:00 錬成
18:00~19:00 夕食 2F 花舞
20:00~23:00 任意錬成
- 【9月1日(日)】 6:30~ 起床
7:00~8:30 朝食 1F 飛翔
9:00~12:00 錬成
12:00~13:00 昼食 2F 風の杜
13:00~17:30 錬成
18:00~20:00 宴会 2F 花舞
20:30~23:00 任意錬成
- 【9月2日(月)】 6:30~ 起床
7:00~8:30 朝食 1F 飛翔
9:00~10:30 錬成作品鑑賞の会、閉会式
10:30 解散

10 変則参加の場合の費用計算……【1泊の人の費用】

下記A, B, C, D, Eの内、必要な項目の費用と17,000円（指導料・錬成会場使用料・運営費）の合わせた額となります。

- A 31日(土)宿泊費(一泊・夕朝食付) 14,000円
B 31日(土)夕食のみ 5,500円
C 1日(日)昼食弁当代 2,000円
D 1日(日)宿泊費(一泊・夕朝食付) 15,000円
E 1日(日)夕食のみ 7,500円

例(31日宿泊で1日の昼食を必要とする方)

$$A + C + 17,000\text{円}$$

11 交 通 ●電車で 東京駅から1時間30分~2時間

新宿駅 ————— 東北新幹線 75分 ————— 郡山 ————— 磐梯西線 快速14分 ————— 磐梯熱海 (磐梯熱海駅からホテルまで送迎バス)

●車で 東京から約3時間

浦和 I・C ————— 東北自動車道 140分 ————— 郡山JCT ————— 磐梯道 8分 ————— 磐梯熱海 I・C ————— (5分) ————— ホテル

12 前泊取扱 遠方から参加される方のために前泊が可能です。ただし、書象会では取り扱いませんので、利用者が直接ホテルに申し込んでください。また、前泊分の宿泊代の清算も直接行ってください。合宿経費と混同なさらないようお願いします。

令和元年度 書象会夏季合宿鍊成会のご案内

書象会研修部長 柳澤玄嶽

今年の夏季合宿は、福島の地での開催となります。雄大な磐梯山、豊かな猪苗代湖に近く、大自然に抱かれておおらかな気持ちになれる場所です。合宿会場は、11年前と同じ磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」です。静かな林の中に美しいツインタワーがそびえる近代旅館です。ホテルの大きなコンベンションホールを解放していただきましたので、ゆったりした鍊成が楽しめます。基本の筆遣い習得コースから作品制作コースまで多彩な鍊成部門を用意しております。書友お誘い合わせの上、書道三昧の夏をお楽しみください。

記

1 期 日 令和元年8月31日（土）～9月2日（月） 2泊3日

2 会 場 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

〒963-1387 福島県郡山市熱海町熱海五丁目8-60 TEL 024-984-2222

鍊成はホテル内で行います。

鍊成用具等を「宅急便」でホテルへ送付される方は30日着の「期日指定」とし、宛名（ご自身の氏名）の上に「書象会」と記入してください。

3 定 員 200名

地元会員の便宜を図るため、通いの鍊成も可能です。ただし、2泊のうちの1泊は必ずホテルに宿泊することを原則とします。

申し込み期日内でも定員になり次第締め切れますので早めにお申し込みください。

4 費 用 46,000円

ホテル宿泊費、鍊成会場使用料、指導料、昼食代、運営費などを含みます。

ただし、手本代は含みません。また、通いの人は費用が異なります。10の変則参加の場合の費用計算を参照してください。

5 指 導 者 書象会の幹部の先生方が小グループ別に懇切丁寧に指導にあたりますので、初めて参加される方も全く心配されることはありません。且つ、十分な成果を得ることができます。

6 部 門 「書象誌半紙課題」…半紙。「書象誌」の中の楷書や行書、仮名の半紙課題の練習。

「信山流条幅」…半切。「書象誌」の中の漢字条幅、隸書条幅仮名随意の課題の練習。

※以上2グループについては書象誌8月号と9月号を持参してください。

「書象展」…全紙1/3・半切など。様々な書体でご自身に合った効果的な作品作りを学びます。初めて展覧会に出品する方には最適です。

「謙慎展A」…謙慎展評議員・一般公募出品サイズ。本格的な条幅作品の作り方を学ぶ基礎鍊成。調和体・仮名を含みます。

※以上2グループについては本部で手本を用意します。

「謙慎展B」…謙慎展理事・評議員・その他の書展出品者。

「日展」…日展出品者。

※以上2グループの手本については各自でご用意ください。

※参加申込書には謙慎展の場合AかBの回答もご記入ください。

7 持 参 品 書道用具一式、毛氈の下に敷く広めのビニールまたは古新聞紙、その他各自必要なもの。

頭痛や擦傷などの簡単な薬は係が用意しております。なお会期中に「玉蘭堂」「鷺毛堂」の書道用品業者出張販売を予定しております。

第12回藤岡月華書展

会場 平成三十一年四月一日(月)～六日(土)
銀座「新井画廊」

月華展を見て

荻田光山

桜咲く中、第十二回藤岡月華書展が、銀座新井画廊で開催されました。

賑やかなオープニングパーティに始まり、さまざまな分野の方々が、来観されました。

今回は、好きなことば、身近に起ったことなどに、目を向けられたとのことです。

書歴七十年になる先生の主軸は、甲骨文です。二十九点にのぼる多彩な作品が、展示されました。保存樹が繁り、水路の流れるお宅の庭には、コゲラがやってきます。作品『啄木鳥』は、甲骨文の中にいのちを感じます。大作『氣樂坊』は、烈しさを秘めつつ、温かい広がりがあります。お父様がお好きだった字『誠』は、モダンで心が落ちります。

『美智子妃の御歌』の軸作品には、気品と優しさがあり、妃への敬意が感じられます。そして、曹操の詩の一節『志在千里』は、まさに、先生の今のお気持ちを表わしているとのことです。

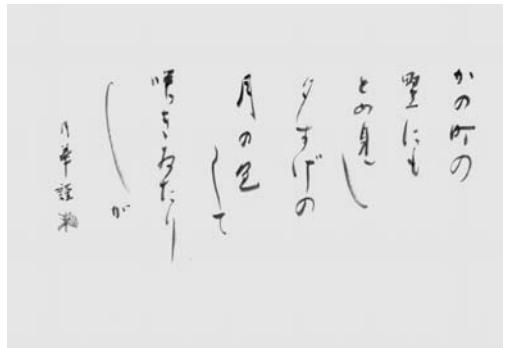
見ていて、楽しく、心引かれる作品群です。

自然を愛し、好気心旺盛な月華先生には、一門下生として書への追求はもちろん、人生の師としても教えていただくことが、沢山あります。平成から令和につながる、相応しい書展となつたことと思います。

会期中は、上條節夫様御夫妻、唐澤かづ子様、田中会長御夫妻、書象会の方々の御高覧を頂きました。(鹿島未華記)



オープニングパーティー（左が藤岡先生）



「美智子妃御歌」



「誠」

月華展を見るたびに思うことだが、旧作の大作が生きとして、こちらに迫ってくる。前に見たはずなのに、まるで印象が違う。

小品の数々は、月華女史の頭に浮かんだイメージと心のありようが一つになって、よどみも迷いもない。

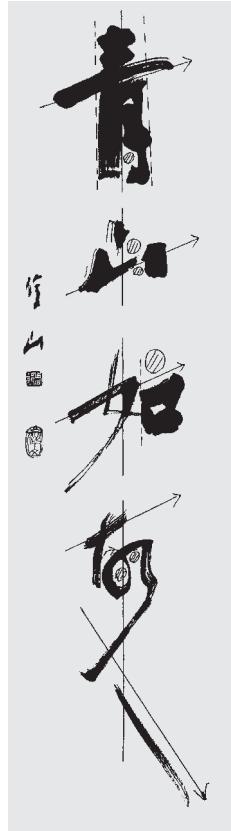
そして、素材の字句はもとより、筆も墨も紙も額も、女史の目にかなった、日々の生活の中で心がけて集めたり、探したりしたものを、まるで普段使いの延長線にあるがごとく自然で、優美に使いこなしている。

「ありのままの自分で表現したい」といつも考えているが、不必要な力みばかりが先行してしまふ私にとって、「かくありたい」と願うのには、まだまだ勉強が足りない。

王羲之にしても顔真卿にしても、尺牘や草稿にその魅力と価値があるようだ。書を学び表現するということは、日々の生活の積み重ねによって生まれる「その人らしさ」だということをあらためて感ぜずにはいられない。

書象会通信条幅研究会課題の解説（令和元年五月～七月まで）

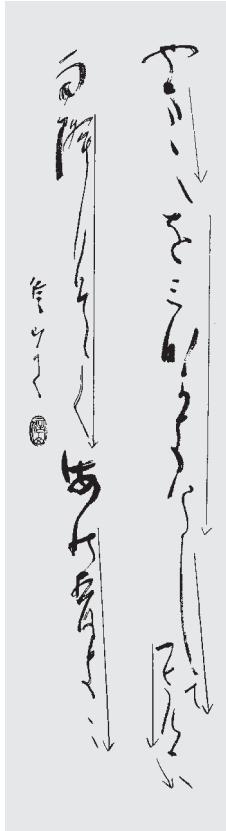
信山流



隸書



仮名



今回は連綿の多い仮名手本です。

「み(三)な(那)か(可)き(支)け(介)して」の部分は一気に、しかも受け

とめるところはしっかりと受けてから次へすすめる。

「降りそそ(ゝ)ぐ」では幅をせまく、行をたてて「海」で墨をつけ右下方向へおさめていく。

「け(介)して」の「し」と、「降り」の長く伸ばす線の長さや表情を、同じにしないように、変化をつけて書いてみましょう。

最初の三文字までは、正確な楷書により緊張感を持たせ、後半二文字では、行書連綿により前半の緊張感から解き放たれ、心地良いリズムを醸し出している。作品全体の横画は、ほぼ同一方向に運筆されている。

・青：三画目の横画以外は同じ長さ。

・山：一画目は字全体のやや左寄り。

・如：偏と旁の位置がポイント。

・故：空間の取り方に留意。図版参照。

・人：最終画は四文字の横画に対応しながら、右下方向へ、腕全体で運筆する。

正師範紹介

書は一生の稽古なり



若竹支部

佐々木 梅清

墨をたっぷりつけて筆で文字を書く。やわらかい筆の感触が心地よく、「書道って素敵だな」と感じるひとときです。この度は、正師範の認定をいただき、ありがとうございました。日頃から熱心に御指導して下さる上條恵香先生には、深く御礼申し上げます。授号の際、上條先生には「書は一生の稽古なり」というメッセージをいただきました。この言葉を胸に刻み、これからも精進を重ね、書道のすばらしさを伝えられる人になりたいと思います。今後とも御指導よろしくお願いします。

感謝



青雲支部

武田 純彩

この度は、正師範の認定を頂き、驚きと同時に喜びでいっぱいです。先生には「子供達も大変お世話になりました」「よかっただけ」と声を掛け頂いた事がきっかけで、三人で習いました。しかし、私の仕事が不規則な勤務のため、続ける事が難しいのではないかと不安と迷いがありました。そんな時に、「書ける時」に書いて持って来て、そのお言葉に甘え、ここまで続ける事が出来ました。「感謝」の一言です。これも先生の丁寧な御指導とご協力のおかけです。今後とも御指導の程宜しくお願い申し上げます。

感謝



青雲支部

宮下千雪

この度は正師範の認定を頂き有難うございました。この度は正師範の認定を頂き、驚きと同時に喜びでいっぱいです。先生には「子供達も大変お世話になりました」「よかっただけ」と声を掛け頂いた事がきっかけで、三人で習いました。しかし、私の仕事が不規則な勤務のため、続ける事が難しいのではないかと不安と迷いがありました。そんな時に、「書ける時」に書いて持って来て、そのお言葉に甘え、ここまで続ける事が出来ました。「感謝」の一言です。これも先生の丁寧な御指導とご協力のおかけです。今後とも御指導の程宜しくお願い申し上げます。

この度は正師範の認定を頂き有難うございました。この度は正師範の認定を頂き、驚きと同時に喜びでいっぱいです。先生には「子供達も大変お世話になりました」「よかっただけ」と声を掛け頂いた事がきっかけで、三人で習いました。しかし、私の仕事が不規則な勤務のため、続ける事が難しいのではないかと不安と迷いがありました。そんな時に、「書ける時」に書いて持って来て、そのお言葉に甘え、ここまで続ける事が出来ました。「感謝」の一言です。これも先生の丁寧な御指導とご協力のおかけです。今後とも御指導の程宜しくお願い申し上げます。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

特待生になつて



若葉支部 中二

長山 麻緒

今回の試験で特待生になれることを嬉しく思います。私は小学校二年生の時から書道を習っています。約七年通わせてくれた両親と先生に感謝です。今よりも綺麗な字を書けるようにさらに精進したいと思っています。

支部長先生より一言 初チャレンジでの二冠達成おめでとう!!落ちついてお稽古する麻緒ちゃんの実力が発揮されましたね。

私は、小学一年生のころ書道を習い始めました。中学生二年生で特待生になることができました。「合格。」と知ったときは、とてもうれしかったです。今回は、硬筆での特待生なので、次は毛筆で取りたいと思います。

支部長先生より一言 特待生おめでとう。勉強と部活動の両立も頑張りましたね。次回は、毛筆の部で特待生を目指そうね。

硬筆の特待生になつて



玄巣支部 中二

岩田 穂乃花

普段、筆よりも鉛筆を使う機会が多いので、腕が上達したのは、とても良い事だと思います。それに私自身も見ていて気持ちいいので、ますます書くことが好きになりました。これからも日常で活用していくたいです。

支部長先生より一言 毛筆に続き硬筆も特待生合格おめでとう。絵も字もセンス良く上手に書く誠悟君、今後も期待しています。

先生と親のおかげ



名東支部 中三

桜木支部 中三

竹田 風奏

根気よく教えてくださった先生



名東支部 中一

脇田 彩愛

私は幼稚園の年中から習字を始め、上手に書けなくなり嫌になることもあったけど、先生が根気よく教えてくれた親のおかげと思い、感謝しています。

支部長先生より一言 彩愛ちゃん、おめでとう。グングン上達して、大きく美しい良い字になりました。硬筆もあと少し!!

今月の優秀品



△漢字条幅▽ 評 寺尾 碩雲

中田秀麗 字形・大きさ・字間良し。
泉澤木苑 泊えた線質。

豊田桂秀 厳しい線が心に響く快作
手本を消化し、流暢に書き上げている。

篠塚葉曉 手本に忠実。静かな雰囲
気でまとめた。

小林貞月 逆筆がよく効いた、伸び
やかな作品。

板谷静思 小ぶりに格調高く仕上げ
た佳作である。

前山景草 信山流に北魏楷書を上手
く加えた作品。

名久井光扇 手本をよく見て重厚な線
で表現できた。

△条幅随意▽ 評 恩田 靜月

西鴻齋花 破綻なく書き上げた。品
格も高い秀作。

青柳綠水 墨色の変化に富み、線に
躍動感もある。

北村照節 縦に降りてくる心地よい
流れが印象的。

△通信条幅▽ 評 樋口 玄山

遠藤翠雅 各文字が上下でうまく調
和した。

加藤穆舟 安定した線質、構造で全
体をまとめた。

野口虹汀 錐いタッチで貫通力あり。
余白美もある。

基本課題

評 二瓶 嶽風

枯魚煎

濁水

枯魚煎

濁水

虹
霞
山
映
小
雨
淨
紙面にいく込む重厚で落ち着きある作。

研究課題

評 久保 妍山

朝辭白帝彩雲間

朝辭白帝彩雲間

朝辭白帝彩雲間

朝辭白帝彩雲間

虹
霞
山
映
小
雨
淨
紙面にいく込む重厚で落ち着きある作。

朝辭白帝彩雲間
千里江陵一日還
两岸猿聲啼不住
輕舟已過萬重山

朝辭白帝彩雲間
千里江陵一日還
两岸猿聲啼不住
輕舟已過萬重山

朝辭白帝彩雲間
千里江陵一日還
两岸猿聲啼不住
輕舟已過萬重山

朝辭白帝彩雲間
千里江陵一日還
两岸猿聲啼不住
輕舟已過萬重山

虹
霞
山
映
小
雨
淨
紙面にいく込む重厚で落ち着きある作。

古典課題

評 二瓶 嶽風

事違

至然

不知老

至及其

光 大胆な墨色の変化の中に明るさを感じる。
花 動きのある線で、全体感よくまとめた。
仙 字形の工夫と潤滑による爽快感がよい。
松 息の長い線質で書かれた作。この調子。
鐘 鐘錠を想わせる字形で、柔軟な線大佳。
嵐 軽快で懐が広い文字で出来ている作品。
月 頭部を大きくし、下への流れを見せた。
瑤 かりん 一字一字丁寧に書かれているのが良い。

師範部

△行書▽

評 柳澤 玄嶽

小暮 静翠
佐藤 茜沙
金子 夕紅
齋田 昌静
工藤 和春
平岡 想花
三浦 径石

格調高く、品位有り。練度の深い秀作。
流麗な線質と爽快さ溢れる作。余白美佳。
抑揚の変化に富む豊かな線。形も見事。
正確で確かな腕法、安定した筆遣い見事。
明朗快活な流れ。素直な筆遣いが良い。
律動感に溢れ切れと弾力を兼ね備えた作。
温順さの中に折目正しい豊潤さ有る佳作。
素直な筆遣いでリズミカルに運筆された。

					<h1>無受想</h1>	<h1>行識無</h1>
					著者 中田皓花	正確な字形把握、腕の動きスマーズ。
					書評 坂田良楓	小野壺水 含墨豊かにして、鋒先に余裕あり見事。
					書評 石原翠幸	甘味が有る豊潤な線表現が特に際立つた。
					書評 森村湖亭	静かで大らかな筆遣い。構造に安定感。
					書評 浅井菖風	軽快で動きのある筆致。余白美も見事。
					書評 飯島蓉光	誠実な学習態度が特徴をしつかり把えた。
					書評 下平楠舟	小林硯舟 肉太の線で統一し、豊かな雰囲気が漂う。
					書評 高橋太一	飯島蓉光 大胆な線の動きがのびやかな紙面を表現。
					書評 山本爽節	下平楠舟 正確な筆づかいで細太を巧みに表現した。
					書評 杉本統華	石沢秀庭 細線が弱くならず紙面をうまく支える。
					書評 菊池恵爽	高橋太一 線の強さ行の流れそして静けさ、うまい。
					書評 林田翠山	山本爽節 静かに、ていねいに実に上品にまとめた。
					書評 中久木陽映	杉本統華 スピード感のある潤渴が実に清々しい。
					書評 福田高苑	菊池恵爽 息の長い線、正確な造形に手練の技あり。
					書評 余白を美しく響かせた落ち着きある作品。	林田翠山 紙質にあわせた墨の使い方が実に見事。

△假名▽

評 竹内 墨洋

学生部

評 杉山 晓雲

岩村芽依 筆の入れ方に配慮され、切れ味がよい。

神谷未来 余白の空け方がよく、字配りが美しい。

小田切日奈 墨色鮮やかで伸びやかに筆を運べている。

鈴木莉理子 点画の等分割が正確で形がとても美しい。

溝口真那佳 曲がり角の書き方がよく習得されている。

黒田悠美子 太い線で紙面いっぱいに書ける力がある。

前田莉子 どこまでも伸びてゆくような運筆がよい。

斎藤彩華 筆を長く運んでゆく粘り強さ見事だ。

吉原美桜 たて線の筆運びがよい。リキまないから。

宝田来瞳 右ハライが上手に書ける。練習したね。

平野寧音 文字の中心のとり方が正確で安定した。

田中陵太 廣瀬楓 ふでの力をぬかないでの力づよく見える。

片山りおり 平野寧音 あたたかいムードをもつやさしい作品だ。

西尾みなみ ふでをしっかりとぎってかいている。

石井都月 おちついたきもちでたらにかけた。

かきなれた字でせいかくにかけている。

半紙隨意

評 荻田 光山

豊島彩友 字形の取り方、筆運びともにすばらしい。

薄井光悠 同じ太さで、しっかり書けています。

澤本さくら 紙いっぱいに元気に書けました。

ふとく、大きくりっぱに書けました。

このページに掲載された人には書象会より記念の
筆をさし上げます。

小光中二 豊島彩友

進級

小六 薄井光悠

上達

小四 山下ひまり

友

大

らかべく

まとう

ことう

いし

合話
い

な木

な木

らかべく

目標

草木

草木

合話
い

遊ぶ

遊ぶ

遊ぶ

目標

小五
美桜

六年
黒田
悠美子

小四
宝田
来瞳

小五
彩華

龍文
眞希佐

中三
特待生
岩村
芽依

小六
莉子

中二
小田切
日奈

無受想 行識無 行識無 行識無 行識無 行識無 行識無	無受想 行識無 行識無 行識無 行識無 行識無 行識無	無受想 行識無 行識無 行識無 行識無 行識無 行識無	無受想 行識無 行識無 行識無 行識無 行識無 行識無	無受想 行識無 行識無 行識無 行識無 行識無 行識無
行 行 行 行 行 行 行	識 識 識 識 識 識 識	無 無 無 無 無 無 無	行 行 行 行 行 行 行	識 識 識 識 識 識 識
想 識 無 受 想 識 無	受 識 無 想 受 識 無	想 識 無 受 想 識 無	受 識 無 想 受 識 無	想 識 無 受 想 識 無
無 無 無 無 無 無 無	受 受 受 受 受 受 受	想 想 想 想 想 想 想	想 想 想 想 想 想 想	想 想 想 想 想 想 想
受 想 無 受 想 識 無	受 識 無 想 受 識 無	想 識 無 受 想 識 無	想 識 無 想 受 識 無	想 識 無 想 受 識 無
想 識 無 受 想 識 無	受 識 無 想 受 識 無	想 識 無 受 想 識 無	想 識 無 想 受 識 無	想 識 無 想 受 識 無
無 無 無 無 無 無 無	受 受 受 受 受 受 受	想 想 想 想 想 想 想	想 想 想 想 想 想 想	想 想 想 想 想 想 想
受 想 無 受 想 識 無	受 識 無 想 受 識 無	想 識 無 受 想 識 無	想 識 無 想 受 識 無	想 識 無 想 受 識 無
想 識 無 受 想 識 無	受 識 無 想 受 識 無	想 識 無 受 想 識 無	想 識 無 想 受 識 無	想 識 無 想 受 識 無
無 無 無 無 無 無 無	受 受 受 受 受 受 受	想 想 想 想 想 想 想	想 想 想 想 想 想 想	想 想 想 想 想 想 想

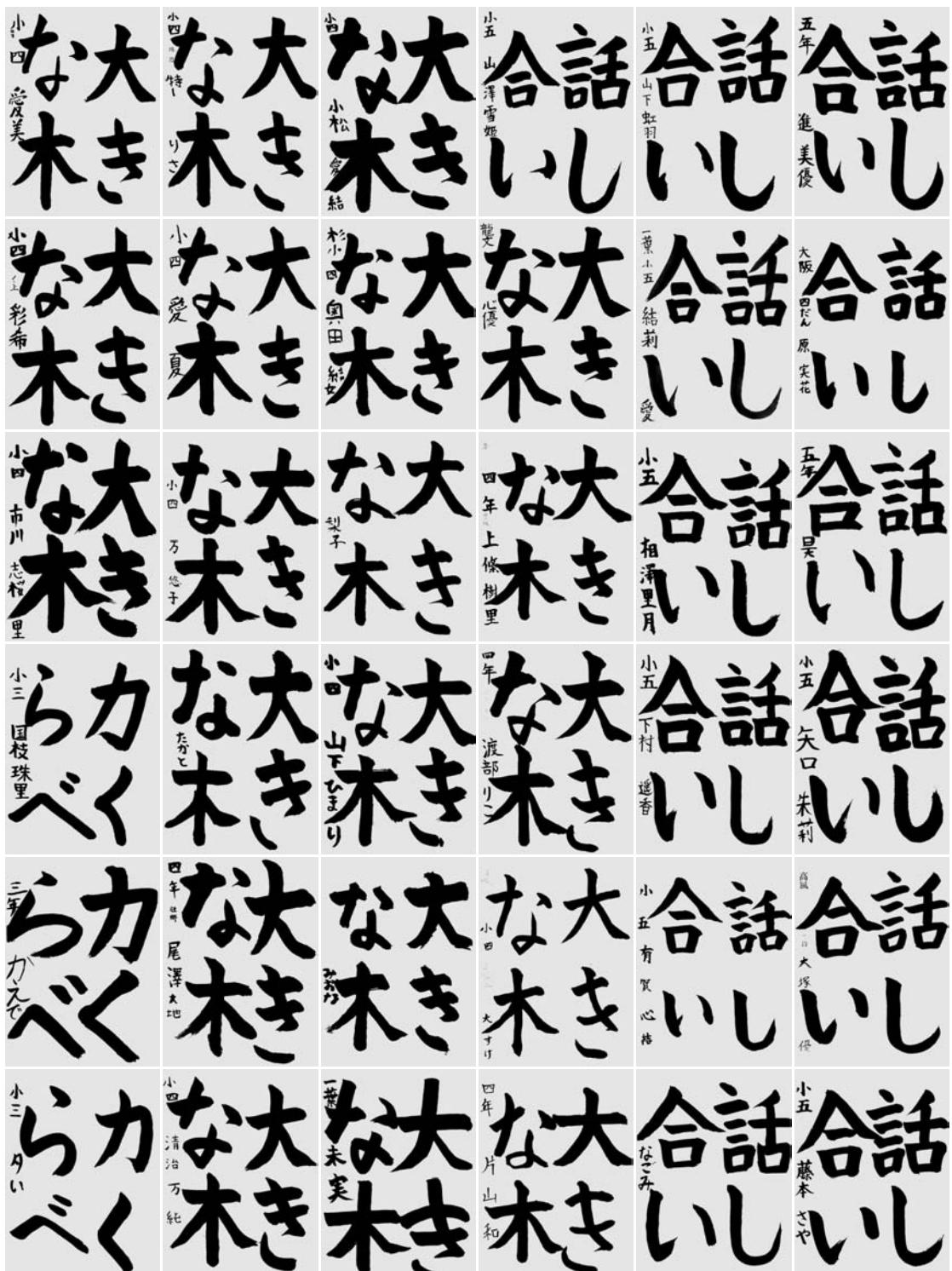
東竹雅 樺 根華森	級 柏玄優八樞横 芳耀生戶友二	段 倭杉 段 位 會苑吉中央宮城 井下宇田江戸川	假 杜美大產中成若霞 会 大作吉松若華	行 小皓八竹八游竹書信玄 位 平花潮華戶墨友泉大心象 位 飯島越川飯島久保田 位 佐々木長竹須藤小澤 位 仁谷江戸長竹 羽清仁谷江戸佐々木長竹 山水平江戸佐々木長竹 游由賀教惠雅佐々木長竹 翠紀子香高裕絲園廣文舟香 游由賀教惠雅佐々木長竹 翠紀子香高裕絲園廣文舟香 志月
獮 染森 谷田倉	青木 木 真 響泉	青木 木 真 響泉	北島由 中村川島小林由 中原中村川島由 原中村川島由 み由 由由 み由 み由	北島由 中村川島小林由 中原中村川島由 原中村川島由 み由 由由 み由 み由
寬教玲 師 子子海竹	光 由 美 雪 泉	光 由 美 雪 泉	美 由 美 雪 泉	美 由 美 雪 泉

杉 中一 後藤 雄登 目標	中一 乃愛 學習	中三 登間 瑞希 目標	中二 副島聰人 遊ぶ	中二 三原和花奈 遊ぶ	中二 美音 遊原で
味太郎 目標	土筆 中一 津田 葵菜 學習	中一 鹿原千香 目標	中二 高橋 澄 遊ぶ	中二 黒森 梓奈 遊ぶ	中二 三枝 豊島 彩友 遊原で
中一 塩川咲子 目標	中一 琴美 學習	中一 目標	中三 遠川 合沙羅 遊ぶ	中二 本田 明太 遊ぶ	中二 小梅 遊原で
末乃果 目標	中一 藤崎 みのり 學習	中一 目標	中二 桐原 彩 遊ぶ	中二 健斗 野原で	中二 松下 遙香 遊ぶ
鈴鹿中一特一級 鈴木 晴輝 目標	中一 河野 将之 學習	中一 麻央 目標	中二 琴音 遊ぶ	中三 春撫 野原で	中二 土筆 四條 陽采 遊ぶ
中一 助川 唯 目標	中一 滝沢 結衣 學習	中一 準五 日菜 目標	中二 林中真 遊ぶ	中三 馬上奈緒 野原で	中三 久喜 石井 蓮花 遊ぶ

[毛筆] [中二・三] [小光] [華雪] [筆] [笹嶋]
 み鈴玄若玄杉須坂覗霞若土秀名華茅一中名東水中松正虹優虹大練馬北府花蓮覗竹青雲久喜士筆
 な鹿樸竹黙坂墨松筆雪東生桂友生苑田馬場安村水田石井三原和花童花
 助鈴北川秦後藤河野藤崎みのり青木津田兒島井澤鳴原鹽谷昼夜狩野副島高橋尾上安村水田黑森健太
 川木菜琳乃暎太雅登衣将之琴美菜乃愛麻央彩遥希楓琴音まみ沙羅澄人春奈春奈楓奈
 唯暁樂登衣乃愛麻央彩遥希楓琴音まみ沙羅澄人春奈春奈楓奈

小五 合話 いし	杉月 の芽	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽
小五 合話 いし	大森由 心	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽
小五 合話 いし	長谷川 優	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽
小五 合話 いし	赤岩 穂果	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽
小五 合話 いし	伊奈 汰	合話 いし	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽
小五 合話 いし	南保 葵音	合話 いし	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽
五年 合話 いし	別どうそつま 莉緒	合話 いし	草木 の芽	草木 の芽	草木 の芽

【小六】この房風美那凜心華雪仙台高木楓本龍ひかり
 有さわ五名東倭峯石みな伊奈書之楳月練馬靜翠柏心一絵飯山硯扇大象光丘星竹華坂大星秀雪小野山絢乃
 別當南保稻原深津大柿大竹坂本荒木赤岩長谷川野崎大森津久井島村三石宮下池澤鈴木真鍋三原武藏
 美音千結礼真奈結麗航汰莉穂果由葵光翔南芽生優心結菜心輝莉希穎阿部篠原幸希内田薺乃
 風華雲星愛南麗航汰楳月光翔南芽生優心結菜心輝莉希穎阿部篠原幸希内田薺乃
 美那凜心華雪仙台高木楓本龍ひかり
 梢本寧々彩加美優直亮海美月梨涼々



[小三] 光丘愛山 玄默 上尾華 雪秀 往郷若 悠めぐ 光珠一葉 春練馬 成城杉正桂 湯楓奈 湊文龍
[小三] 岩立加納 国枝 夕依楓里 珠里 萬地大貴 悠子 純愛 美里斗子 梨紗未実 緒奈愛 結女樹里
[小三] 光丘愛山 玄默 上尾華 雪秀 往郷若 悠めぐ 光珠一葉 春練馬 成城杉正桂 湯楓奈 湊文龍
[小三] 岩立加納 国枝 夕依楓里 珠里 萬地大貴 悠子 純愛 美里斗子 梨紗未実 緒奈愛 結女樹里
[小四] 美墨一葉 長寿玄馬 緒練志摩城山 高風霞彩原 原進矢口大塚
[小四] 美墨一葉 長寿玄馬 緒練志摩城山 高風霞彩原 原進矢口大塚

ま 木 木 木 木 木 木 木	こ 二 二 二 二 二 二 二	う 年 年 年 年 年 年 年	ら 立 李 天 特 金 中 一	べ 怜 光 化 頗 井 山 上	く べ く べ く く く く	か 萩 田 鹿 カ 楠 下 下	べ 島 中 鳥 カ 井 山 山	く く く く く く く く	
こ 水 水 水 水 水 水 水	う 八 八 八 八 八 八 八	ま 谷 谷 谷 谷 谷 谷 谷	ら 年 年 年 年 年 年 年	べ 上 紳 化 頗 井 山 上	く く く く く く く く	か 田 中 鳥 カ 楠 下 下	べ 中 中 鳥 カ 井 山 山	く く く く く く く く	
う え え え え え え え	ま 八 八 八 八 八 八 八	こ 明 明 明 明 明 明 明	ら 化 天 化 特 金 中 一	べ 下 原 麻 頗 井 山 上	く く く く く く く く	か 鹿 鳥 原 カ 楠 下 下	べ 鳥 中 原 カ 井 山 山	く く く く く く く く	
ま ま ま ま ま ま ま ま	こ こ こ こ こ こ こ こ	う さ さ さ さ さ さ さ	ま 鹿 鳥 智 天 特 金 一	ら 天 化 化 頗 井 中 上	べ 原 麻 麻 頗 井 山 上	く く く く く く く く	か 原 原 原 カ 楠 下 下	べ 原 原 原 カ 井 山 山	く く く く く く く く
ま ま ま ま ま ま ま ま	こ こ こ こ こ こ こ こ	う さ さ さ さ さ さ さ	ま 鹿 鳥 智 天 特 金 一	ら 天 化 化 頗 井 中 上	べ 原 麻 麻 頗 井 山 上	く く く く く く く く	か 原 原 原 カ 楠 下 下	べ 原 原 原 カ 井 山 山	く く く く く く く く
い い い い い い い い	し せ せ せ せ せ せ せ	い は は は は は は は	ま 金 井 中 一 上 一	ら 中 山 山 上 下 下	べ 山 山 山 山 山 山 山	く く く く く く く く	か 楠 井 山 山 山 山 山	べ 井 山 山 山 山 山 山	く く く く く く く く
い い い い い い い い	し せ せ せ せ せ せ せ	い は は は は は は は	ま 金 井 中 一 上 一	ら 中 山 山 上 下 下	べ 山 山 山 山 山 山 山	く く く く く く く く	か 楠 井 山 山 山 山 山	べ 井 山 山 山 山 山 山	く く く く く く く く
い い い い い い い い	し せ せ せ せ せ せ せ	い は は は は は は は	ま 金 井 中 一 上 一	ら 中 山 山 上 下 下	べ 山 山 山 山 山 山 山	く く く く く く く く	か 楠 井 山 山 山 山 山	べ 井 山 山 山 山 山 山	く く く く く く く く
い い い い い い い い	し せ せ せ せ せ せ せ	い は は は は は は は	ま 金 井 中 一 上 一	ら 中 山 山 上 下 下	べ 山 山 山 山 山 山 山	く く く く く く く く	か 楠 井 山 山 山 山 山	べ 井 山 山 山 山 山 山	く く く く く く く く

【小】山 象 美二 芙二 瑞祥 八潮 綾華 有穗 藏野 若宮 光丘 霞墨 湿秀 雪名 東華
【小】美二 芙二 瑞祥 八潮 綾華 有穗 藏野 若宮 光丘 霞墨 湿秀 雪名 東華
末瀬 奥井 小野 吉村 大隅隆之 木曾 藤崎 東條 長谷川 清水 都竹 蓮尾 鹿島 金井 鈴田 千 瑞碧 明里 桜子
琉谦介 圭翔 優来 彩葉 咲衣 夏音 咲英 紗由 咲磨 碧唯 唯美 咲緒 瑞希 天佑 紗紗 拶塚 續里 梅里 梅里
立怜 美月 佐來 美優 佐來 美優

曲がり人生を持つ人には、自己

の往事に信念を持ちと可能性

を信じて金力を尽すとした。

琴羽 謙里師

古代文字はなかなかおもしろい。例えは「人」という文字は立っている人間の形「ア」とかく、川の東山香

曲がり人生を持つ人には、自己の往事に信念を持ちと可能性

を信じて金力を尽すとした。

琴羽 謙里師

「古代文字」はなかなかおもしろい。例えは「人」という文字は立っている人間の形「ア」とかく、中三 南賢成

私が思う、貧しい人とは、限りない欲を持ちいくつあっても満足しない人のことだ。ホセ・ムヒカ 石田雅子

来週の学級会では、私達

の意見をまとめて発表

する予定です。高社 六・五 映

春の陽気にさそわれて

春の陽気にさそわれて

春の陽気にさそわれて

春の陽気にさそわれて

春の陽気にさそわれて

春の陽気にさそわれて

古代文字はなかなかおもしろい。例えは「人」という文字は立っている人間の形「ア」とかく、黒田 千尋

来週の学級会では、私達

の意見をまとめて発表

する予定です。有山 ひなた

春の陽気にさそわれて

春の陽気にさそわれて

春の陽気にさそわれて

〔硬筆〕

【一般】 麗墨 折笠 琴羽

若竹 小見 汀心

華雪

小見

千尋

琴羽

華雪

聖

有穂

美怜

翔

翔

【中学】 八潮 進藤

皓花

中山

にこ

翔

翔

翔

翔

【小学】 中山 進藤

皓花

聖

有穂

美怜

翔

翔

翔

翔

翔

翔

翔

翔

翔

翔

翔

翔

翔

翔

翔

翔

映霞硯高有北水源右書瀬富 碩八瀨磯玄國墨沙林須汀龍玄中美志 // 檜岡虹珠 // 魏柏蒼笠書京葉皓若星産自春静玄茜静心墨 風象府代創文集戸士 雲戸戸辺燐府心羅 坂松文心野生摩 森谷友紅 山心穹原之都月花竹 吉座玖 横翠師行師
秀秀
映雪硯祥愛厚降隆邑稍谿陶秋真武光五葉耀峯翠清曉智旭映優康晨雪英劍彩通響珠小恭里硯菖湖翠良壘皓恭想和千昌夕茜静範書範夜

芳霞心仙麗子雪峯琴祥華代靜浩扇代蕉楓山溪羊汀真美雪姬子翠園遠山紅明山杏子影奈舟風亭幸楓水花月石花春節靜紅沙翠

魏藏平 // 笠サ // 静巍桜游美玄 // 長 // 静華三産 // 皓柏玄桜京玄八絹志葉千長伊美高杉若平静上東巍富 // 青一露房 // 上大富東茅港
山成原ノ 山森墨菜嶽野 雪池吉 花芳黙樸森都黙南丘摩月曲野奈菜風 竹成 里光山貴 雲路墨風 尾阪貴陽野南
秀秀秀
青梅明泰美詠美靜貞紫征霽文秀靜靜華溪琴皓景我天李小雅順江象奏啓靜芭菜壽懶秀太雅秀濤千翠俊竹瑞順智夕壺康康敦華曉空
々代

沙恵桜薰亭舟靜秀松草光華子華唱惠幸逕風月雲光山性雪琴幸道蕙月風子志靜子明花庭一子峰仙子山瑛虹竹子園霞玉仙惠玉英子道真
浅自正奈 // 產柏御座長杉玄土 // 新松 // 玄文耕小小六美文土玄京長岐玄柏蒲飯玄大京 // 玄八幅八雅書巍若房倭一大湊董寿聖竹長
間産桂華 吉心牧吉翠 黙曜 城南 横化象光平会苑化筆樸都翠阜横心田田成象都 嶽潮友潮之山宮風 絵阪 台 友寿
秀秀
莉清優淳高秋楠鐘櫻佑邀光花摩敦志純燁美紗靜小芳美沙爽並香紀孝 桜文成穆雲佳詠華祥寿慶逕雅梗江梗盡綠惠珠最い昭花テ寿
惠 利 麗 す ツ

杏遠美子苑麗舟洞庭光月紗仙紀子苑華山杏虹素琇月子雪節沙琳子光子 舟子華舟峯惠草葉葉月山月春翠茜紗桜水爽松玉み子瑠子香
// 笠 // 静 // サ香皓 // 京華八 // 京小花長 // 土 // 雅 // 京美小 // 笠若妻杉玄乙桐上杉船浅玄足
原 花 雪都南 都平宛野 筆 都那平 原竹科 默訓生里月橋間樸羽
秀秀秀
泰泰泰泰小玲遊君靜靜美直美久藤祥華華華華華華華奧華初冬悠禮明邦典杠惠靜陵啓雅雅信和美博壽久泰京春明薰京秀陽杉裕李春
美 恵
恭蕙空淨翠秀心子思鶴舟子砂子花遊慧榕彩穗泉凌楓雅楓子美子楓華子琳光光映香楓代楓楓峰華惠咲月清光禾琴翠映惠子香里
葉 // 葉名 // 葉皓柏皓柏 // 静 // 華香華 // 笠大 // 笠 // 游李游美 // 霧珠 // 小 // 笠游 // 笠 // サ // 静
月 野 月東 月花芳花 雪 雪 原手 原 墨光墨菜 訪悠 光 原墨 原 ン

美静溪美真陽琴知ま敦三百和善晴芳翔己梗彩玲華華華華華植華泰泰廣泰光泰彩泰友美泉李禮壽立舒知光泰泰泰由安泰豐里碧香裕江
智 奈佐 す 合
子淑苑子子三真子子行子子一子子芳花雲散奈駿杏紋琇芯子聲寿帛柚姫邦風桂乃城子光梢光光苑子山子惠搖箇芯松穹光芸舟慶翠繪舟織静静
芙大 // 巍榮 // 巍書巍土書 // 飯 // 和若 // 大光久 // 玄信 // 飯 // 玄 // 京 // 玄 // 濱 // 京長八 // 梢八美 // 長 // 野
二象 山書 山之山筆之 田 宮 象丘喜 嶽大 田 嶽 都 嶽 戸 都野潮 友潮菜 野

み水伊溪幸蕙佐葵眉繪蕙蔦完勝 静孝梗宗雄圭由桜恵蕙詩美桜桜成玉李双芳葵寿弦照洗英采典白津彩靜兔花瑞倉壽皓富文靜玉静杏晃靜弘
ち 登 淳 香 子煌子茜泉影美翠頃江 江子華心峰苑里蘿葉鳳李雪虹玉苑蘿葉葉葉雅照鎧葉葉子羽楓楓邦月逕選子楓靜吟靜靜澄靜映靜千子
玄大楷宮 // 巍樂巍 // 須沙 // 志桜石有桜美桜彦桜白奈 // 桜 桜笠 // 奈御 // 柏 // 志 // 長宮 // 美国 // 巍樂長若 //
心泉川地 山書山 坂羅 摩森峯象森森森根森山華 森 森原 華牧 心 摩 寿川 生府 山書寿駒

珀萌泰笙霞清雨小晨晴信智綴楊道暉洋蒼星晨豪 哲照裕素廣涼聖惠文光溥幹優泰礼励悅善豈鹿華聴香涼清壽寿祐佐晨蓮景茜霞澄壽真美
勇 代
舟泉泉仙菖茜香映雪沙翠翠悠羊舟幸山一峰紅英峰 山節子風山香嶽星嶽水山雨華仙子子子苑聲峰月苑華子星雅鳳貴子玉堤草英草泉江敬花子
// 莉唯水房瑞映靜竹映董 // 富房湊靜 // 湊聖北 // 莉玄東竹房 // 書瀬 // 産 // 須自杉桜 // 相楽須 // 汀玄半愛 // 珠 //
心代風样心象華心 貴風 象 府 横根華風 集戸 吉 坂産 森 興書坂 松心田心 紅

翠輝聰祥壺名映寿理映翠明重青汀静汀妙惠寂靜翠嶺紅淳天谿雨谿谿朝愛喜萌青智智智智心煌天た泉松智絹順明由明史雅桂絵珠珠良こ珠真和
か 美 す 由
真香子月登琳祥汀香華紗笛子泉紅成茜仙由翠雅花雪一翠暉虹彩峰芳子鈴春禾松寿祥炎快扇妙ね志沙洲子子美子美代子翠里遊水龍え颯美雄
乙桐右恵松美 // 秀秋 // 玄六杉 // 浅秦 // 上伊ハ玄惠美 // 正遊神玄土神 // 産御自浅湊映霞 // 高湊 // 大 // 北 // 有 // 北 // 綾瀬
訓生川戸蓉 雪川 横郷月 間野 里奈南成川五 桂 奈成曜龍 吉牧雀間 心墨 風 阪 府 象 華戸

尚千涛梢杏久明菊蕙翠晶桂か昭杉容韶祥愛芳濤陽康春祥惠尚采花遊慷慨鈴恵秀清貞淡琇皓映晨白蒼洸清晨珠玻萌凌仙隼加節夕歌友伶玲絵照弘
美 り
山春泉陽果子恵枝果苑山春ん惠咲光泉映光月山松絹信苑彩子女峰嘉泉山華風娥光泉愁峯草笙堂葉風花秀悠玉翠翠山代峰節節美那翠子美子
// 玄 // 美神秀 // 一墨巖國房浅飯桜 // 足半乙房 // 白玄 春紅玄 // 成瑞富瑞 // 上 // 富倚 // 富小 // 青 // 瑞壽 // 宝 // 青 // 霞 // 富
模 墨 雪 絵墨山府風間山森 羽田訓風 岡默 鳳竹心 城祥貴祥 尾 貴雲 貴川 雲 祥台 春 雲路 墨 貴

小荷照哲整秀李秀礼泰弥鶴天湖恵佳真佐美景青汀香朋心美春美明光名千霽康康安天天喜光藍陽藍流麻明純名名訪寶裕一千花溪虹藍壺佳
美 智智 知音 ち
楓玉子子音風光子慧生苑澄泉子蓮希代子城葵霞扇泉燈子鳳里峯成竹扇照紗清沙螢夫虹采咲瑠花景月溪虹竹彩洗琇琴泉春美子雪天霞震川晶扇
照備 // 玄 // 文 // 蒼石玄東 // 文新蒼備有 // 春有藏 // 新玄 // 有 // 国 // 松 // 新 // 蒼 // 蒼 // 柏 // 玄有八花 // 美 // 東巍 // 六美新
澤後 横化 穀峯樺和化城穹後象 玖象 城默 象 府 南 城 田 心 横象南象 苑南 光山 会苑城

照菖半小綠淨曉麗秀菖瑠芝直麗蘭佐姫ハ比麗京節節麗梅た永章麗麗 美景 朝陽雪麻香玲さ典浩蓮洞袖め祥希藤沙沙真啓道ふ健霞恭ふ干知晴
以ナ か 湿 厚 登 里 く ぐ み じ嘉
和珀里董風山麗爽麗月月華子節節子象ヨ彩湖節雨真吟秀子實敬陽竹 仙仙 花江川菜織笙ら子舟舟香み節紅花泉春弓風子え夫舟子枝子子美
茅磯 // 港東磯 // 北磯 // 北産八静綾妻南 // 長美折 // 錦御若妻 // 杉 // 玄若杉花玄 // 玄長 // 柏 // 玄 // 長國産文 // 有 //
野辺 南陽辺 府辺 府吉南 華科墨 翠原 黄牧竹科 黑竹 象心 黑翠 心 黑翠府吉化 象

美葉玲蕉窓慶千葉美雅代葉頃千葉祥盈久春南樹喫辰沙柏錦錦貞汀惜初紅無南賴齐耕靜翠廣月天清越清響 綾旭五大孝紀景春秀有白照
惠 也 真
子曉窓苑心泉子苑草子美子明山景苑菊月恵瑠岳光光桜園泉葉雪月心春泉流双花山苑山章花峯性意天山玄光 子蓉福慶我翠光京桃月美麗好
倚平 // 有柏蒲北若杉富伊若杉玄平国野 備心一東 // 濱 // 磯東 // 茅沙瀬土 // 東硯 // 積 // 莽瀬富若源 // 中西志中桜右中硯 //
雲成 象心田府松丘 土奈竹 心成府辺準後和絵陽 戸 辺陽 野羅戸曜 陽 雲 戸士松創 野 摩勢森文勢雲
秀秀秀秀秀秀秀秀秀秀秀秀
順信友静翰佳嘉千政快和か憧直和佑恒淳範蓄益 祥竹草葉葉葉葉葉葉葉葉葉江正峰千友蘭見江真輝欽泰多澄美一美肇澄悠鐘谿汐桂素松桂壯志
お 阳 喜 恵
子一節節舟子子華一風子る光子夫美子子 紀亭 己心竹梢楓苑栄艸徑桂濤恵純弦羊梅月紹風理子造雄子子風穂子子華香榮沙香耀州菜舞一豊

第58回

書道展

特別企画 俊英選抜五人展

特別コーナー 第50回全国学生書道展



会期：2019. 6. 13(木)～6. 23(日)

午前10時～午後6時 休館日 6.18(火) 入場は午後5時30分まで

会場：国立新美術館 2階C. D展示室

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

TEL. 03-6812-9921

主催：書象会

後援：読売新聞社

公益社団法人 全日本書道連盟

会期中、ギャラリートーク・全国学生展・講評会・支部長講習会・実技講習会を予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。詳しくは、P21を参照下さい。

◆春季昇段級試験作品締切迫る
作品締切日は五月二十一日(火)です。期日厳守の上、努力作品を提出して下さい。

▲書展予告▼

☆第44回泰山門書道展

会期 五月二十五日(土)～二十六日(日)

会場 塩尻市民交流センター「えんぱーく」
星の両サイドの書

会期 六月三日(日)～九日(日)
(三日は13時～18時) 11時～18時

会場 横浜赤レンガ倉庫一号館二階

会期 五月二十日(土)～二十一日(日)
TEL 045 211 1515

出品者 現代書の最先端を走る漢字・仮名・前衛の書作家46人
(一人4メートルの壁面)

会場関係 杉山 晓雲

◆第36回読売書法展関係運営日程

◇添削会(持参作品は一人五点以内)

五月十九日(日) 武藏野市民文化会館

六月二十三日(日) 国立新美術館

七月七日(日) 武藏野スイングホール 午前十時～

◆書象登録・変更申請用紙について

申込用紙がお手元にない時は、事務所へお申し込み下さい。

●計報

◆最終選考会

七月四日(木) 武藏野市民文化会館

六月九日(日) 国立新美術館

七月九日(日) 武藏野スイングホール 午前十時～

◆書象登録・変更申請用紙について

申込用紙がお手元にない時は、事務所へお申し込み下さい。

●計報

◆最終選考会

七月四日(木) 武藏野市民文化会館

六月九日(日) 国立新美術館

七月九日(日) 武藏野スイングホール 午前十時～

発行人 代表 上條 節夫 象

東京都武藏野市吉祥寺北町四一三一六

郵便番号 180-0001 電話〇四三二(五三)九七四三

振替口座 ○○一九〇一七一五五六九一

振替名義 (有)書象

印刷所 株式会社 リンクス

氏名